

地元で活躍して30年の市民バンド

大井川吹奏楽団の皆さん

議員が直接話を聞いて市民の本音に迫る「市民インタビュー」。

今回は、大井川吹奏楽団団長の篠原英明さんと、顧問と指揮者を兼任する池谷久治さんにお話しを伺いました。

大井川吹奏楽団の活動について教えて！

大井川吹奏楽団は、焼津市大井川文化会館ミュージコ（以下ミュージコ）の建設をきっかけに、公民館講座の吹奏楽教室という形で始まりました。その仲間を中心に、平成4年にアマチュアの吹奏楽団としてスタートしました。

現在のメンバーは、大井川地区の方をはじめ約30名が活動しています。15歳から74歳と3世代にわたる年齢層でアットホームな雰囲気自慢の楽団です。



団長 篠原英明さん

主な活動は毎年11月に開催する定期演奏会を中心に、ミュージコ吹奏楽フェスティバルの企画・運営、焼津市民音楽祭、幼稚園でのミニコンサート、公民館まつり等各種イベントに参加しています。幼稚園では、純粹に五感で楽しんでくれるので、私たちも定期演奏会とは違った満足があります。練習は毎週金曜日の夜に大井川公民館で一時間半程度行います。定期演奏会前にはミュージコを借りて行うこともあります。



練習の様子

焼津市の文化振興の取り組みについてどう感じている？

吹奏楽演奏は、屋外でも楽しんでいただけませんが、音響のいい屋内施設、文化活動を行う活動場所は不可欠です。大井川地区は、ミュージコの建設によって文化の華が咲いたなと思っています。演

奏を楽しんでいる人、聴くことを楽しみにしている人がいて、コミュニケーションが生まれる場にもなりました。建物は地域を変えてしまおうんだと思いました。ミュージコを拠点に活動、発信を行うことにより、ハード面とソフト面が相まって、本団も地域に根差した活動を進めるきっかけとなりました。ミュージコ、公民館の応援をいただき活動できているので、大変ありがたいと感じています。今後も関係施設の環境整備をお願いしたいと思います。



行政や市議会に期待するって？

最近の動向として、学校部活動から地域部活動への移行が実施されつつあります。吹奏楽部を地域部活動へ移行するためには、使用する楽器、活動場所、指導者等多くの課題があり、これらの解決には行政、市議会の応援が必要だと考えます。吹奏楽人口の減少は避けたいので、青少年を対象とした社会教育の充実を重点策として文化振興に取り組んでいただきたいです。当団もこれまでの経験を基にして、より一層地域に貢献できるような吹奏楽団になっていければと思います。



顧問 いげがやひさし
池谷久治さん



インタビューの様子
篠原さん、池谷さんと河合議員（手前左）、内田議員（手前右）

今後の目標は？

大きな目標は、定期演奏会を続けることです。続けるためにはメンバーがいないと活動が成り立ちません。現在エキストラにもお願いをして演奏をしています。いずれば自分たちだけで演奏会ができればいいと思います。団員は随時募集しているので、気軽に練習を見学していただけるとうれし

定期演奏会では、コロナ禍で集客ができない状態が続いているので、コロナ前のように満席での演奏会にしたいと思います。そして演奏を通じて小中学生など若い子たちに楽器の楽しさを知ってもらい、将来は吹奏楽をやってみたいというようになってもらえればと思います。

毎年11月に定期演奏会を開催しています♪
令和4年は11月27日（日）に開催！
詳しくは大井川吹奏楽団のホームページ
あるいはFacebookをご覧ください。
<http://www.oigawa-wind-orchestra.net/>

